

中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

公 募 結 果

■ 概要

選考結果	採択
団体名	鳥取藝住実行委員会
代表者名	水田美世
申請事業名 主題	鳥取クリエイティブプラットフォーム構築事業
申請事業名 副題	鳥取県立美術館整備を契機とした地域の内発的創造活動活性化のための体制づくり
エリア／テーマ	<p>【鳥取県】</p> <p>人口減少(特に生産年齢人口の減少)や高齢化率の増加に伴い、県内の働く場づくりやコミュニティの活力創生に関連する分野において想定される社会的資源(特にヒト・カネ)の減少と、将来的な資源の共有化や選択と集中にそなえ、上記活動の継続性・拡張性を担保できる</p> <p>① 取組の強化・創設、及び</p> <p>② 組織体の強化・形成をはかる。</p>
解決すべき社会課題	<p>③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援</p> <p>⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</p>
申請事業の概要	<p>(解決する課題の前提)</p> <p>世界は課題であふれている。近代科学の発展により、人々が暮らしていくのに必要なエネルギー・食料・物資を、多くの人々が効率的に手に入れられるようになっているはずだが、一部の人々にとってはまだそれが困難であったり、利害の対立する人々の間での対立・戦争は絶えることがなく、生命を脅かすウィルスの蔓延や気候変動など、心配ごとを挙げればきりが無い。地域に目を転じると、他国で起きているような武力紛争こそ起きていないものの、少子高齢化、人口減少によって活力が失われ、昨今の新型コロナウイルス感染症の蔓延がそれに追い打ちをかけている、ように見える。</p> <p>鳥取は、人口減少・過疎化の先進地域であり、一般的に言えば、それらの課題も深刻であることは否めない。しかし、ここでの日々の暮らしとその未来は、それほど悲観すべきものではないのではないか。</p> <p>そのことを気づかせてくれたのが、2014年・2015年に鳥取県内各地で開催された「鳥取藝住祭」であった。そこでは、各地域の市民たちが、地域内外のアーティスト(芸術家)との交流を通して地域の価値に気づき、暮らしの中にアート(芸術)が得意とする創造的視点を取り入れることで</p>

豊かに暮らすことができること(これまでも実はそうしてきていた)を確信し、新たな営みも生まれ、育っている。

鳥取藝住祭は、2015 年度で終了したが、これに参加した団体(プロジェクト)が継続して交流を続け、地域の創造的な取り組みを進化・展開させるプラットフォームとして組織したのが、本事業申請団体の「鳥取藝住実行委員会」である。同実行委員会では、定期的な情報交換の場を設けると共に、ウェブマガジン「totto」の運営を通じ、創造的な取組の紹介と切磋琢磨を試みている。

そんな中、鳥取県は、長年の懸案であった県立美術館(博物館から独立させる)を鳥取県中部の倉吉市に整備することを決め、2025(令和7)年春の開館に向けて準備を加速させている。言うまでもなく、美術館は美術をはじめとするアートの重要な拠点である。しかも、整備予定地の倉吉パークスクエアには、同じく県立の劇場施設である倉吉未来中心のほか、なしっこ館や倉吉市立図書館などの文化施設が集積する知の拠点であり、ここがアートを媒介とした創造性の涵養・醸成に大きな役割を果たすものと期待される。

本事業は、鳥取藝住祭での気づきを基に、その後の5年あまりで継続・新生・展開してきた各地の取り組みを持続可能なものとし、県立美術館整備も一つの契機として、創造的な取り組みがさらに鳥取県内各地で多様に展開・発展させるために実施するものである。

(本事業で取り組む課題)

前述したように、アートを媒介とすることで、地域で暮らす人々が足元や自身の魅力や創造に気づくことができ、生活を豊かにしていくことが可能であることが見えてきている。このように、人々が自信と活力を取り戻すことで、その他の様々な地域課題の解決に向かう意欲と力を取り戻していくことこそが重要なのではないかと考える。

鳥取藝住祭は、このことに気づく一つのきっかけとはなったが、これを展開すべく活動している鳥取藝住実行委員会は基本的にボランティアベースの活動となっており、各団体のイベントの紹介やレポートに留まるなど、様々な限界・課題に直面している。

行政としては、鳥取藝住祭の所管であった鳥取県・文化政策課が、同事業終了後もアートを活かした地域活性化のための補助金などで団体を支援しているが、団体同士を結び付け、あるいは新たな取り組みの芽を見出して支援するという機能までは果たせていないのが現状である。県立美術館整備局は、文化政策が所属する知事部局ではなく、教育委員会の所管であり、また、当面は施設本体の建築(ハード面)に注力しており、県民の創造性を育むという視点での事業内容の構想に関しては、こ

	<p>れから本格的に着手しようという段階のようである。</p> <p>以上を踏まえた上で、当面取り組むべき課題は、これまでの活動の蓄積・成果を踏まえた上で、各プロジェクト自身がステップアップを目指すことができるように団体を支援していくことと考えられる。具体的には、以下のような点での支援が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のアーカイブ(記録集)の作成 ・成果を適切に評価し、新たな事業展開を構想できる人材の確保 ・活動の意義を対外的に広報して支援者・協力者を増やす広報力・コミュニケーション力の育成 ・活動を継続するための資金調達 <p>各団体が苦勞をして活動を続けていても、その活動の本来の魅力や意義が対外的に十分に伝わらなければ、活動継続のための資金調達もままならず、したがって中長期の取組の継続が必要となる創造性の涵養という目的が達成されないままに、活動が停滞してしまう。</p> <p>そこで、本事業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①既存の団体を支援するための拠点と体制を整え、 ②一定の活動実績のある団体のアーカイブ作成を支援し、 ③それを踏まえて活動の意義を対外的にアピールする広報媒体を確立し、 ④活動を継続・発展させるための資金調達を試みる。 <p>以上のような展開で、鳥取の創造的団体の活動を支援する仕組みを試行する。</p> <p>そして、あわせて、この中間支援的活動自体が持続的なものとなるような組織(鳥取クリエイティブプラットフォーム(仮称))の立ち上げを目指す。</p>
事業実施地域	鳥取県内各所:鳥取市・八頭町、倉吉市、米子市・大山町 等
申請事業期間	(開始月)2022年4月～(完了月)2025年2月
申請助成額	20,514,258円 【内訳】直接事業費 17,542,918円、管理的経費 1,997,840円、評価関連経費 973,500円

■ 審査コメント

1 加点要素

(1) 鳥取藝住祭の成果を継続張ってさせようと県域での展開はスケールが大きいだけに様々な点で興味深い。とりわけ多様な分野の多彩な人材が集う自由闊達な討議の場面に、鳥取の未来が生まれるように思う。

(2) 美術館開館が予定されており、事業時期としてはタイムリーと考える。追い風があるうちに実施す

る意義はある。

(3) 既に自前メディア「totto」を有し活用されており、本事業進めるうえで広報戦略部分で大きなアドバンテージと考える。

(4) アート団体からの期待値は高いものと思料する。

(5) 新たな価値創造という点、現在文化系の取組の助成などが置き去りにされている点、アーツカウンシル等の機関がトップダウン型ではなく民間発でいかに構築しうるか？そのモデルケースとして機能しうる点を評価する。

2 減点要素

(1) 本事業の社会的意義は賛同するが、中長期的アウトカムにある、団体の活動内容のアーカイブが作成され、発信されることが、アート等を媒介とした創造的な活動が持続的・自律的に運営できる仕組みの構築につながるか、そのプロセスが非常に不明瞭。具体的手法が全く提示されていない。

(2) 拠点の維持費用や、鳥取クリエイティブプラットフォームの運営費用、事務局の人件費をどう確保していくのかについて、より具体的な手法の提示がほしい。

(3) 短期アウトカムも含め、段階的な活動の評価・方向性の確認に慎重さを有すると感じる。

(4) 将来展望として、寄付を中心とした活動資金調達体制の継続性と美術館の運営補助活動が大半の活動とならないことが気になる。

3 要検討

(1) 芸術・アートの分野だからと言うこともあり、団体、分野別、地域別の意識の違いが生まれ安いが、その溝が埋めて行けるかどうか。現状把握が的確で、課題の整理が出来、目指す方向も、そのための手段も整理が進んでいないと計画全般にわたっての確かさに疑問を感じる。

(2) 地域の盛り上がりをいかに作れるかが課題。アーカイブ制作の過程がいかに地域と共有される動きにしうるか等、プロセスの作り込みが必要である。